

■ 「倭の五王」から「倭の七王」へ  
はじめに

住谷善慎

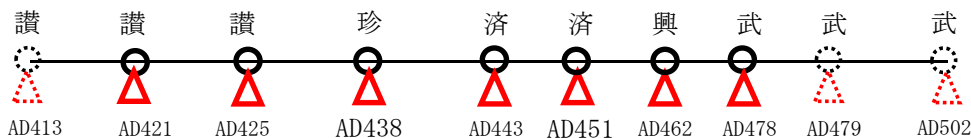
本稿は通説にいう「倭の五王」ではなくて「倭の七王」であることを中国正史『宋書』に記す倭国400年代の宋王朝への朝貢事跡から明らかにするものである。

1. 倭の朝貢事跡について

『宋書』などには倭国朝貢が13事跡記されている。内、『宋書』からは10事跡が記されている。さらに、その中から具体的な倭王が漢字1文字で記されているのは下記の7事跡が確実とされる（下図の実線で示す）。



次に、これらの事跡は点のイメージなので、大王在位期間を年数として線のイメージを加えると下図を得る。



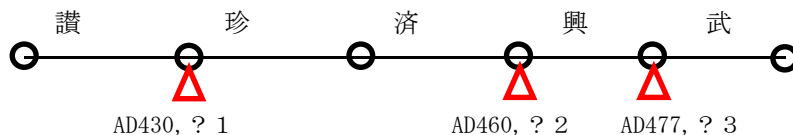
しかし、実際には『宋書』倭国朝貢事跡には上記の五王の他に具体的な漢字1文字で記されていない以下の3事跡が記されている。

AD430倭国王、 AD460倭国、 AD477倭国

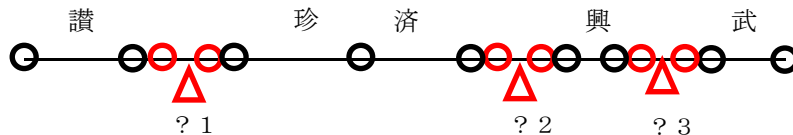
拙案では、最後に記される武（AD502）は雄略ではなく25代武烈に比定するので、とりいそぎ以下、省く。

2. 大王の比定

上記に示す各年代に朝貢した大王が具体的に誰なのかの比定に入る。当然、朝貢主体は倭王だが名前が不詳なのでこれらを？1、？2、？3とすると、下図となる。



そこで、これら3大王はある年数は在位したとして上図に割り込ませると下図となる。



とすると、

- ① ? 1 は具体的に誰の可能性はあるだろうか？ ⇨ 讚、珍、? 1 の3人のいずれか
- ② ? 2 は具体的に誰の可能性はあるだろうか？ ⇨ 済、興、? 2 の3人のいずれか
- ③ ? 3 は具体的に誰の可能性はあるだろうか？ ⇨ 興、武、? 3 の3人のいずれか

ところが、③の? 3は消すことができ、興か武とする2通りとなる。（②安康と②雄略との間に天皇は実在しないため。ちなみに、天皇名に冠する○内数字は代数である）

ここで、? 1、? 2、? 3を考慮すると考えられる可能な大王の組合せはAD430年に3通り、AD460年に3通り、AD477年に2通りとなるので、可能な組合せの数は全部で $3 \times 3 \times 2 = 18$ 通りとなる。

これらの組合せのいくつかを以下に示す。

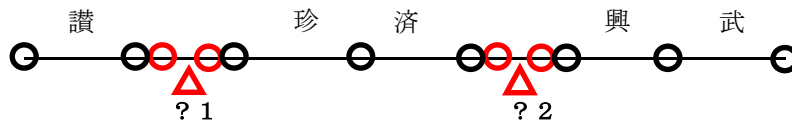
| 年次     | 413 | 430 |   |   | 460 |   | 477 | 478 | 大王数 |
|--------|-----|-----|---|---|-----|---|-----|-----|-----|
| 可能な組合せ | 讚   |     | 珍 | 済 |     | 興 |     | 武   |     |
| ①      | 讚   |     | 珍 | 済 | 済   | 興 | 興   | 武   | 5   |
| ⑦      | 讚   | ? 1 | 珍 | 済 | 済   | 興 | 興   | 武   | 6   |
| ⑩      | 讚   | ? 1 | 珍 | 済 | ? 2 | 興 | 武   | 武   | 7   |
| ⑮      | 讚   | 珍   | 珍 | 済 | ? 2 | 興 | 興   | 武   | 6   |

内訳は五王の場合が8通り、六王の場合が8通り、七王が2通りである。八王以上はない。

この18通りの組合せ（実質的には $3 \times 3 = 9$ 通り）で最も合理的なものはどれか、ということにな

る。

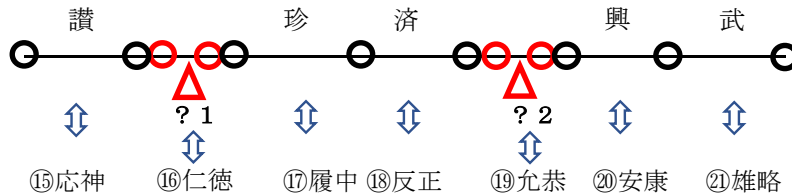
結局、最終的には下図の如くなる。



ここにおいて、『日本書紀』に記す天皇代数を反映して比定を進める。

そのためには、比定が確実とされる武=㉑雄略、興=㉒安康と1：1に対応させて固定して置いてみる。さらに同様に代数を遡ると、下図を得る。

当然、最後は㉓応神である。



これで、過不足なく (= 1 : 1で) 「七王」として『日本書紀』に記す天皇に対応する結果を得る。

### 3. 結果

対応比定により得た結果を以下に示す。

讚=㉓応神、倭国王=㉔仁徳、珍=㉕履中、濟=㉖反正、倭国=㉗允恭、興=㉘安康、武=㉙雄略となる。

おわりに

本稿での立論は史料である中国正史『宋書』から読み取れる朝貢事跡を合理的に展開して「七王」を得た。もう一方の実体としての古市・百舌鳥古墳群に所在する大王墓の被葬者比定を立論することによっても、これら七王の実在性がより強く傍証される。つまり、史料と実体としての古墳とを1：1のピンポイントで合理的な対応手法をとることにより、より正確な実相が得られるものとする。

(参考文献)

石原道博編訳 2005『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』中国正史日本伝(1) 岩波文庫 青401-1

武田幸男編 2005『古代を考える日本と朝鮮』吉川弘文館

住谷善愼 2009『邪馬台国へ詣る道』文芸社

住谷善愼 2014『倭の七王からみた大王墓比定試論』第3版 私家版

住谷善愼 2015「(P10) 倭の七王からみた大王墓25基編年試論」日本考古学協会第81回総会ホースターセッション